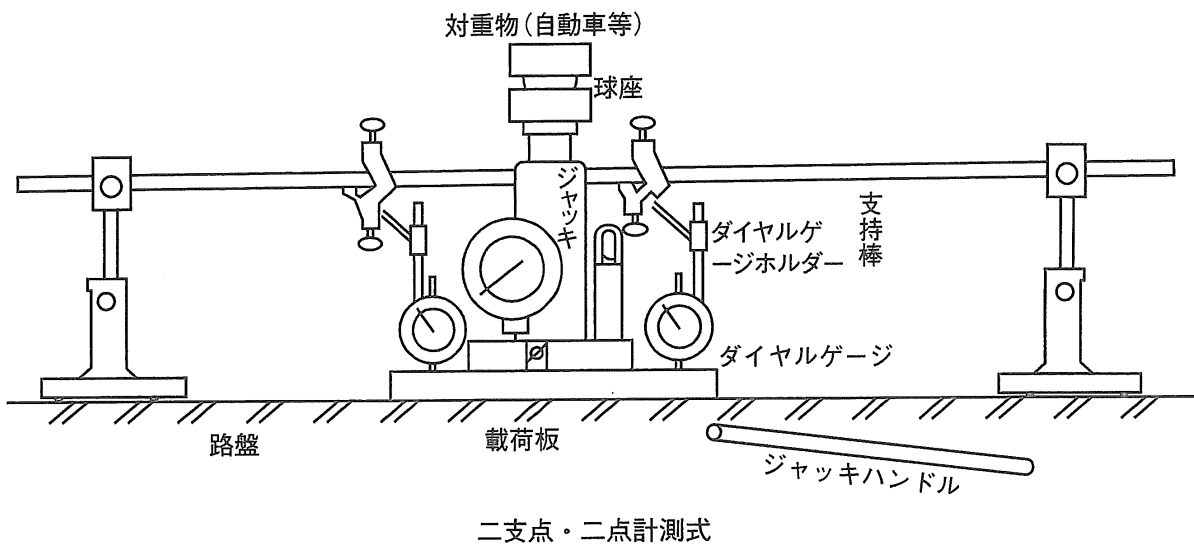


→ 平板載荷試験装置

取扱説明書

 株式会社 西日本試験機



平板荷重試験装置

此の装置は道路、滑走路などの基礎となる路盤、路床の支持力を求める試験に使用するもので JISA1215規格の試験に適用できる試験装置であります。

試験装置

二支点・二点計測式と二支点三点計測式の二種類があります。

二支点二点計測

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| (1) 荷荷板(平板) | 直径300mm 持手付 1枚 |
| (2) ジャッキ | 容量100kN (又は50kN) 圧力計付1基 |
| (3) ダイヤルゲージ | 働長20mm 精度1/100mm 2ヶ |
| (4) ダイヤルゲージ支持装置 | 二支点二点計測型・・・図-1 |
| | 支点間距離3m 1式 |

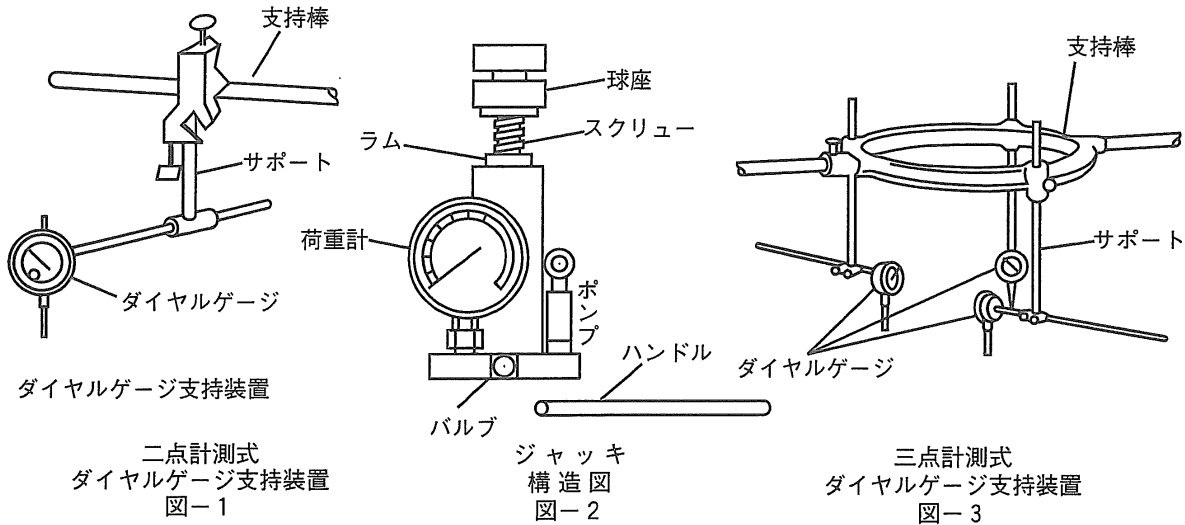
二支点三点計測式はアルミニウム製円形計測リングを用いてダイヤルゲージを3ヶ取付けます。

・・・図-3

試験 (JISA1215)

試験地盤の準備

- (1) 地盤は粗骨材の現われていない様な場所を選び水平にならし、必要があれば薄く砂を敷いて荷荷板のすわりをよくする。

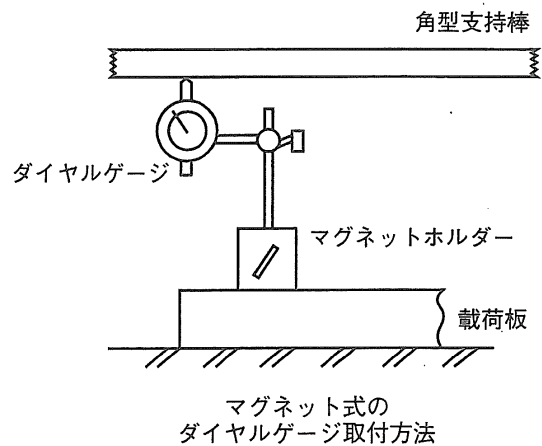


二点計測式
ダイアルゲージ支持装置
図-1

ジャッキ
構造図
図-2

三点計測式
ダイアルゲージ支持装置
図-3

- (2) 載荷板を地盤上に設置しこれに載荷板中心とジャッキ中心とが合致するようにジャッキを設置する。
- (3) 対重物となる自動車又はトレーラーを移動させ荷重接点ジャッキ真上になるように移動させる。
- (4) ダイアルゲージ取付装置の支持支点を載荷板中心から少なくとも1m以上離れた所に置き二本の支持棒を支持継足して支点間に架設する。
- (5) 支持棒にダイアルゲージ・サポートをそれぞれ設置しダイアルゲージを取付二個のダイアルゲージを対象位置に載荷板の端方にあらかじめ押し込んだ状態にて固定する。
- (6) ジャッキ頭部に球座を載せ球座と対重物との間に木材、鉄板などを押し込んで調整を計り微小調整はジャッキの中のスクリューに依りこれを行い直ちに荷重が加えられるようにしておく。この時ジャッキのラムを出して調節することはその後の試験に必要な働長と考え合わせ、出来るだけ行わないよう注意する。・・・図-2
- (7) 載荷板を安定させる為に予め35kN/m² (300mmφ 載荷板で2.47kN) の荷重をかけてから荷重を取り去りダイアルゲージを零に合わせるか、又はそのときの読みを沈下の原点とする。

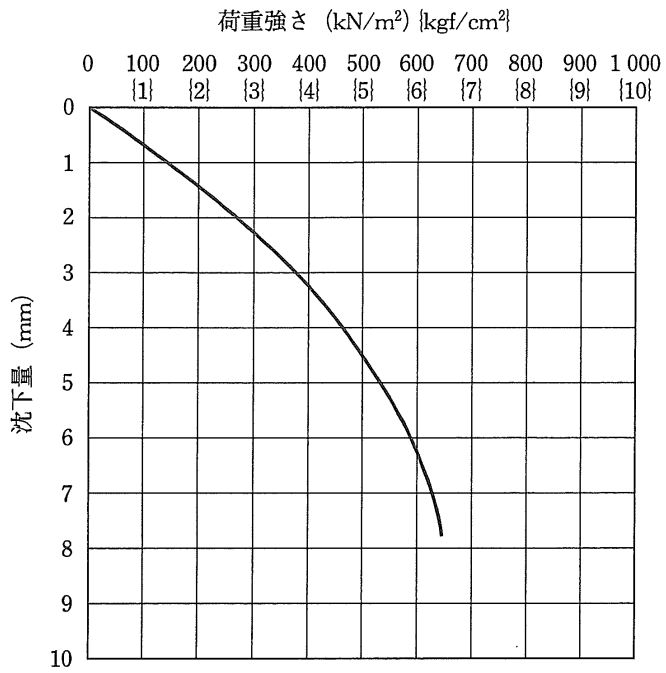


マグネット式の
ダイアルゲージ取付方法

試験開始

- (1) 荷重段階を35kN/m²きざみになるように荷重を段階的に増加してゆき荷重を上げるごとにその荷重による沈下の進行が止まるのを待って荷重計と変位計の目盛を読み取る。1分間の沈下量がその荷重強さによるその段階における沈下量の1%以下になれば沈下の進行が止まったと

図-4 荷重強さ-沈下量曲線の例



報告

試験結果については、次の事項を報告する。

- (1) 地点番号
- (2) 試験日
- (3) 試験者
- (4) 載荷板の直径
- (5) 測定記録 (荷重強さと沈下量)
- (6) 荷重強さ-沈下量曲線
- (7) 計算に用いた沈下量
- (8) 地盤反力係数

土質・アスファルト・コンクリート試験機



株式会社 西日本試験機

本 社 〒537-0001 大阪市東成区深江北2丁目14番12号
TEL.06(6975)6733 FAX.06(6975)6738
営業所 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-7-33 西原ビル1F
TEL.092(441)5750 FAX.092(441)5751